



# 放牧牛で100%自家牧草飼料で育てた乳牛です

北海道帯広市の帯広畜産大学で学び、中標津町の酪農家三友盛行農場で現代酪農を離れ勉強をした塩崎さんが育てた乳牛です。(無用な近代的設備投資はしない、身の丈に合った家畜本位の酪農)  
(平成18年(2006年)新規就農、大阪出身塩崎智史さんです)

効率を求めず、欲に流されず、自然の中で自然に近づけて酪農を目指しています。

グラスフェッドの定義、1頭に1ヘクタールの牧場を大幅に超えた、35頭 100haの放牧飼育です。

営農地、美深町は北海道でも豪雪と寒さで有名な山間地。

冬が早く、春が遅いそんな酪農家の後を選び入植しました

牧草の成長にも恵まれない環境ですが、広い牧場を確保する事で気候のハンディをカバーしています。  
糞尿は醗酵させ、牧場に返しています。化学農薬、抗菌剤、ホルモン剤等不使用。

生まれた牛は時間をかけ離乳しながら草を食べられるよう慣れさせます。育成期間も穀物を与えない、だから塩崎さんの牛は小さめです。春の若草を食べた時、夏や冬の干し草を食べた時々で乳質も変わり、季節の風味も楽しみな乳製品になります。(通常の約80%程度の搾乳だそうです)

料理人、須藤さんは札幌から名寄市に移住し、レストランを開店。地元の食材探しの中で最高の酪農家と牛乳に出会いました。

その折、乳製品の加工場が廃業する事を知り「やるしかない」と決心、後を引き継ぎ技術を学んだのが「グラスフェッド製品」の始まりです。

料理人故に、原料・加工・おいしさ・安全にこだわりしっかりと手をかけた製品を作っています。

※grass-牧草、fed-食物、ストレスの少ない放し飼いで良質の草だけを食べて飼育。

Grain-fed 主に穀物で飼育された家畜。Pasture-fed 肉質が柔らかくなるマメ科、イネ科で飼育。

訪問4月7日 平地は雪も解け農作業が始まった地区もあります、ここはまだ冬



加工の須藤さんと、酪農家塩崎さん



乳製品の加工をしている(株)アグリフーズさん



近代的な牛舎と違い糞尿処理は手作業。こうして牛と対面しコミュニケーションをしています



酪農家、塩崎さん平成18年入植厳しさの中で沢山の経験を、今は世界各地から勉強にくる若者が増えてきました



ブラウンスイス この種は生乳より加工乳に良いそうです



冬の間はのんびりと牛舎で過ごしています

やがて雪も解け最高の季節も迎えますのんびりと草をはぐむ光景が直ぐ近くに

